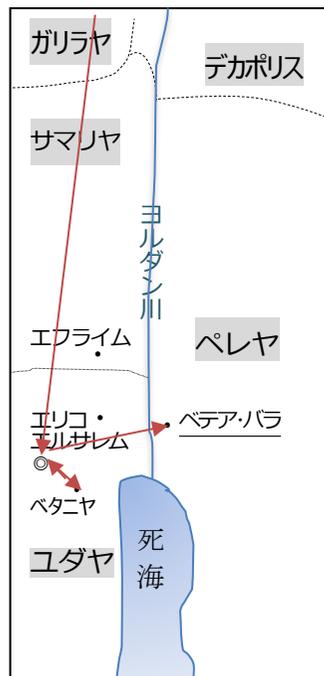


## 「祈りについての教え」



主イエスが十字架に架けられる過越の祭まで約2、3ヶ月間、エルサレムの敵意に満ちた祭司たち律法学者、パリサイ人たちを避け、主イエスはヨルダン川を渡り、かつての72人の弟子たちの伝道の跡も辿って、おもにペレヤまたは荒野などで過ごされた。それはかなり広範囲に及ぶ伝道だったようである。

十字架とその後を意識された主イエスは、この頃、ガリラヤで話されたことも繰り返しながら、多くの教えやたとえ話を弟子たちや群衆に語られたが、その関係上この時期の記録のほとんどがお話をされた部分であり、主イエスの具体的な活動や奇跡の記録はあまり多く残されていないように思われる。

さて、バプテスマのヨハネが洗礼を授けていた辺り(ベテアバラ)に来られた頃、弟子の一人が「祈りを教えて下さい」と願った。

どこに行かれても、何よりも祈りを大切にされる主である。

主の御力の根源は祈りにある。その秘訣を私たちも頂きたい

今回は祈るために、祈りに答えられるためにどうしたらよいか、学んでみたい。

### [聖書の学び]

#### I、祈りとは何か (ルカ 11:1~4)

#### 1、弟子たちが思わず「祈りを教えて下さい」と言いたくなる理由

(ルカ 11:1)

①祈りの後の主イエスのお姿 = 神である方の本来の姿の余韻が残っていた(変貌山のお姿)

- ・モーセは会見の幕屋から出てきたとき、顔の皮が光り輝いていた。
- ・祈りとは、聖なる神との交わりである。

②力ある奇跡を行われる原動力 (ルカ 11:14) = 父なる神との交わり。

③主イエスの祈り…バプテスマのヨハネは断食をし、祈祷文を用いた形式的要素が多かったが主イエスの祈りは神の子の祈りであり、ありのまま、人に見せ、聞かせるものではない。

#### 2、「主のいのり」について (ガリラヤでも教えられたが、これは贖われた者の祈りである)

①「父よ(アバ)」(v2) …子どもが自分をかわいがってくれる父親に対して呼ぶ言葉

②「御名が聖なるものとなりますように」=「御名が崇められますように」

↓  
(ハギアゾー… 他のものから区別して扱う)

③「御国が来ますように」…神の霊的なご支配が、地上でも実現するように願う。

④「私たちの日ごとの糧を、毎日お与え下さい」(v3)…その日の糧を、その日与えて下さい。

↓  
(衣食住とともに、霊的な糧)

・衣食住のために労働するように、霊的な糧のためにも、額に汗して祈る必要がある。

⑤「私たちの罪をお赦し下さい・・・負い目のある者をみな赦します」(v4)

・すでに赦しを頂いている者は、当然隣人を赦さなければならない

(マタイ 18:23~35 p37)

⑥「私たちを試みにあわせないでください」… 日常的にサタンの誘惑にさらされている。

↓  
(誘惑とも訳せる)

## Ⅱ、どのように祈るのか

◎中東では昼は熱いので夜旅をし、真夜中に訪問することは普通で非常識ではなかった。食料の少ない時代、真夜中でも協力することは、命を守るための必要不可欠な事であった。

### 1、遠慮しないで祈る (ルカ 11:5~10)

・神様はしつこく、厚かましい祈りを求めておられる。

【日本人はしつこいのを嫌うが、神様はその逆である】(v5~8)

### 2、求め続け、引き下がってはいけない。

・不正な裁判官も動かす、うるさいやもめ女——神のものとされた私たちの祈りを聞いて下さる。  
(ルカ 18:2~8 p154)

・愛する娘のために、退けられても諦めない熱心な祈り——主の愛を信じて祈る  
(マタイ 15:21~28 p31)

## Ⅲ、父なる神が与えられる最良のもの (ルカ 11:11~13)

①神は父親のように、子どもの願いを聞いてあげたいと思って下さる (v11)

②父なる神は子どもである私たちに、必要なものを知っておられる (v12)

③ご聖霊を求める (v13) (ペンテコステに対する予告)

・主の昇天からペンテコステまで 120 人の弟子たちの熱心な祈り (使徒 1:14 p233)

・他の何よりご聖霊が与えられる事を祈るべきである。

\* **ディスカッション** (心を開いて互いに話し合ってみましょう)

Q. 今日の学びについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。